

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！  
～アッティーヴォ～

# attivo

みやシニア  
活動センター  
通信 vol.35  
(平成31年4月発行)

## 様々な活動で地域に貢献！輝くシニアたち

3月も中旬に入ると桜の開花時期の話題と合わせて米大リーグ、マリナーズとアスレチックスの開幕戦が東京ドームで開催される話題、というよりイチロー選手の話題で持ちきりであった。普段、ナイター中継はBSのライオンズの試合しか見ないが今回は別。特に2戦目は雄星投手が先発する。今日は見る。本音はイチロー選手を見なければ。ひょっとしたら、これが最後という不安がある。

開幕戦、2打席立ち4回の裏にいったん守備についた後交代。試合後の観客のインタビューで引退の雰囲気があったという声があった。アメリカでは一度守備についた後に交代することは、引退を示唆するらしい。

しかし、監督が2戦目も出すと言った。そこで最後かな。ひょっとして3本ヒットを打ち、そのうち1本がホームラン。それなら引退は撤回されないか。でも、その時は引退の花道になるだけで引退は変わらないか。いろいろ複雑に考える。

結局、2戦目は8回まで4打席凡打。そして、8回の裏に1度守備についた。すると1戦目と同じく監督が出てきた。「ええーっ。」交代だ。このまま延長戦に入れば、またイチロー選手の打席が見られる。

そう思っていたのに。残念な気持ちは、その後の記者会見で安堵に変わった。

40歳を迎える前に引退する選手がほとんどであるプロ野球選手の中であって、45歳で引退を決断し、新たな人生のスタートを切ったイチロー選手。今後の去就には、シニア世代としては大いに興味が湧いてくるが、日本のプロ野球界のみならず、世界の野球人としての活躍を期待したい。

今回は、様々な活動で活躍する輝くシニアの皆さんをご紹介します。(肥後特派員)

①



②



③



① ジャズのまち うつのみやのお話

うつのみやジャズのまち委員会  
会長 吉原 郷之典さん

② 元気な、ちかちゃん・てるちゃんコンビ

高尾 ちか子さん 福田 照子さん

③ 観光ボランティアでのおもてなし

橋本 信之さん

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

## ① ジャズのまち うつのみやのお話 吉原郷之典 さん

取材：肥後特派員

宇都宮の名物として餃子、カクテルにジャズが加わったのは2001年のことでした。今回、そのジャズの話に登場していただきますのが「うつのみやジャズのまち委員会」



【バンマス吉原郷之典さん】

の会長であり、ビッグバンド「スウィングハード」のリーダーでもあります吉原郷之典よしはらこうのすけさんです。ジャズが宇都宮のブランドとなるように頑張っておられます。まだまだとおっしゃる吉原さんにまずは「ジャズのまち」の誕生のお話を伺いました。

当時の市長の福田富一氏から、「定着してきた餃子、カクテルに続く文化的な柱が欲しい。世界的なサクソ奏者である渡辺貞夫さんを顕彰してジャズはどうだろうか！」との話を受けました。「ジャズという一つのジャンルではなく音楽のまちでは？」と提案したところ「音楽と言ってもたくさんある。範囲が広すぎて焦点が絞れない。」と。

そこでジャズを中心とした音楽のまちづくりがスタートしました。

まちづくりに関係のある商店街や識者たちにより委員会が立ち上がりました。委員会の大きな柱は二つあり、音楽（ジャズ）ファンを増やすこと。もう一つはプレーヤーを育てることです。ファンを創り増やすこととして、ジャズが気軽に聴ける場所を創る。ストリートがその一つです。商店街の皆様には迷惑なことも多々あるのですが・・・

オリオンスクエアでのサンセットジャズやJR宇都宮駅でのコンサートもそうです。また、演奏者を育てる面では、楽器セミナーを行っています。現在、その卒業生(?) 達によるバンドもいくつかでき、活動しています。「宇都宮市民ジャズオーケストラ」や小中高生による「うつのみやジュニアジャズオーケストラ」もその一つです。小さい時からジャズに親しんでいただきたいという取り組みです。同じように市の文化事業であります。希望する小中学校にお邪魔してジャズ演奏を聴いてもらいジャズの楽しさを伝えています。

ジャズにはライブハウスがつきものです。そうした店を中心として「宇都宮ジャズ協会」も立ち上がり、宇都宮を訪れた人達がライブを聴きたいという声に毎日応えられるようになりました。ジャズのまちづくりのためのボランティアグループ「NPO法人スウィングタウン協会」も2014年から活動しています。そのスタッフも募集中とのことです。

そんな吉原さんですが、ジャズの生まれた街ニューオリンズ市の「市民栄誉賞」を受賞されました。あのハリケーンに襲われた2005年8月、その半月前に現地を訪れたそうです。「銃の代わりに楽器を」と言う「日本ルイ・アームストロング協会」の提唱に賛同して楽器等をニューオリンズ市の高校に届けに行きました。帰国したらその高校が流されたという話を聞きました。今もありません。

以来コンサートなどで募金活動を行い、ニューオリンズ市に毎年送金を続けています。感謝の受賞なのかな?・・・と

バンド「スウィングハード」の話をして。1968年結成（今年で51年目）。

以来バンドマスター(バンマス)として、また自身もトロンボーンを吹いて活躍中です。昨年11月28日、48回目のコンサートが宇都宮市文化会館大ホールで開かれました。

毎年のイベントであり定着しているとは言え、満員に近い観客です。ゲストの田辺靖雄さん、秋元順子さんを交えての楽しい3時間を満喫しました。吉原さんのお人柄でしょうか、軽妙なお話で会場が和み、メンバーの皆さんもバンドマンという感じではなく明るく優しい感じで、ステージでは楽しそうにニコニコとしていました。アットホームな感じでいっぱいでした。秋元さんのダジャレに会場もステージも大爆笑。観客は(私を含めて)そんな優しさ、和やかさが毎年コンサートにおいてになる要因なのではないでしょうか。



【48th定期コンサート(平成30年11月)】

そんな吉原さんにとって去年は辛い年だったと言います。「ジャズのまち委員会」の立ち上げ時からの相談役であり、日本一古いジャズライブハウス「近代人」のオーナー平山ひらやままさよし氏が、また同じ9月にバンドのメンバーとして結成以来50年、一緒に演奏してきた、片腕であった柿沼康夫さんが突然亡くなりました。



【ある日の練習風景】

コンサートではステージの定位置に柿沼さん愛用のバリトンサックスが飾ってありました。さらにコンサート直前には日本ジャズ界の重鎮であり、「ハード」の大きな支えでありました前田憲男さんが亡くなりました。コンサートでは前田先生のアレンジによる曲を最後に冥福を祈りつつ演奏しました。

ピアニストとして、アレンジャーとしてあまりにも有名な方です。ビッグバンドにとってはいい譜面が宝だそうで、ことに前田先生の譜面はそれこそこのバンドも欲しいものだそうです。

それをたくさんいただけたことは本当にありがたいことでしたし、オリジナル曲も作っていただいたそうです。

吉原さんは今年喜寿を迎えられます。定年までは栃木放送に勤務されておりました。AMラジオ局です。ディレクターとして番組づくりを担当し、仕事柄、歌手との交流、エピソード等も多かったようです。今年で引退を表明した森昌子さんのデビューに際して二荒山神社のあの階段を歌いながら降りてくるようにしたいと思い、当時の宮司と話し合いました。そして森さんは♪せんせい せんせい♪と歌いながら降りてきました。歌い終わり広場でのレコードの即売では瞬く間に完売し、ヒットを確信したそうです。

川中美幸さんも名前を変え、「ふたり酒」で再デビューする時でした。当時、神輿の宮市会ができ、オリオン通りを練り歩き披露しました。途中神輿の休みの時に「ふたり酒」を歌うことができました。評判でした。それがヒットの始まりだったと・・・

また、吉原さんは、今市高校の大先輩、船村徹先生にかわいがられたそうです。鳥羽



一郎さんのデビューの時、吉原さんはお母さんに「兄弟船」を歌って聞かせました。歌詞の3番でお母さんが涙するのを見て「これは売れる。」と確信したそうです。そして、鳥羽さんと一緒にキャンペーンを行い、鳥羽さんは一流歌手に・・・

また、今では世界のカラオケですが、初めはレコードに歌入りと、その演奏（伴奏＝カラオケ）だけのものが売られました。会社の仲間が、それに合わせて歌っているのを見て、「これは番組になる。」と思い、放送局の中で一番早くカラオケ番組を始めたそうです。

話をジャズに戻します。この3月に「うつのみやジュニアジャズオーケストラ」の第10回コンサートが県教育会館ホールで開催されました。吉原さんの言われる「ジャズのまち委員会」によるプレーヤーづくりの一環かなと思いました。



【コンサート後の打ち上げ風景】

小学生もいます。高校3年生を送り出すコンサートでもありました。子供達とは思えない素晴らしい演奏で、その演奏内容やステージの楽しさに吉原さんの思いが浸透していると思いました。素晴らしい2時間半でした。

ビッグバンドではトロンボーンという楽器はバンドの音を中和するもので、どちらかというが目立たない楽器と吉原さんはおっしゃいますが、私からはこと、「ハード」の演奏を聴く限りではトロンボーンは目立っています。

今回、駒生町の健康の森のレストラン「ヨコハマ」で吉原さんにお話を伺いました。スウィングハードの大ファンであるヨコハマの田中ママが「飲んでください。」とお酒を渡しました。「嬉しい。」と何回も。「あまりお酒は飲めないけど」と言いながら。本当はお酒が大好きなんでしょうね。

今年の「ハード」のスケジュールは以下のとおりです。市民こそって応援していければと思います。



【満員の宇都宮市文化会館大ホール】

今年の「ハード」のスケジュール

- 【5月】 19日（日） しおばらジャズフェスタ塩原観光協会駐車場
- 【6月】 2日（日） ミヤストリートギグ オリオンスクエア
- 【7月】 7日（日） セタジャズ オリオンスクエア
- 14日（日） TBL（栃木県ビッグバンド連盟）ビバ・マリアージュ
- 27日（土） 文星夏まつり 文星女子高
- 【8月】 25日（日） ビッグジャズ オリオンスクエア
- 【9月】 21日（土） 宇都宮文化協会祭り・サンセットジャズ オリオンスクエア
- 22日（日） 宇都宮消防団祭り オリオンスクエア
- 【11月】 2日（土） ミヤジャズイン オリオンスクエア
- 【12月】 8日（日） スウィングハード コンサート VOL.49  
宇都宮市文化会館大ホール

## ② 元気な、ちかちゃん・てるちゃんコンビ

高尾ちか子さん・福田照子さん 取材：石井特派員

「人生100年時代」、健康で充実した人生を送りたい!!



【てるちゃん・ちかちゃん】

誰もが願うことですが、じっと待っていても叶いません。今回は、じっくり学び直そう、好きなことを見つけよう、自分の可能性をもっと伸ばそう、人の輪を広げようと、シルバー大学に35期生として入学し、卒業後、同期の「Silver 8-han」の仲間と活動を続けている方にご登場いただきました。市の体育館で午前中、卓球を楽しんだ後の「遠くにいてもちかちゃん」こと高尾ちか子さん、「マジックのてるちゃん」こと福田照子さん、元気な女性お二人です。

仲間との色々なボランティア活動や同好会的な交流で、忙しい充実した日々を過ごしておられる話をお聞きしました。

1つは、この2人を含めた3人で月1回、第4金曜日、特別養護老人ホーム「マイホームきよはら」での活動です。ホールに集まった入所者の一人一人と目を合わせての挨拶のゲーム、“あ”の付く言葉などの言葉遊び(黒板に列記して重複しないように注意)、声を合わせての合唱、手足を動かすゲーム、足し算引き算、しりとり、なぞなぞ遊び、てるちゃんのマジック等々、3人の掛け合いで場の雰囲気盛り上げ、高齢者にとっては、時に真剣に考えて脳トレに、声をあげて笑ってと、楽しい約1時間の活動を続けて3年になるそうです。外部の人との交流機会の少ない、表情の乏しくなりがちな入所者にとっては、この3人は待ち遠しい顔なじみの訪問者に違いありません。別れの握手は力強く、「また来てね」の声に送られて、次回はどんな趣向を凝らそうかと、いつも考えながら帰るそうです。

2つ目は、月1回の定例会や卓球、社交ダンス、その後の食事会、ウォーキングなど、14名の仲間との楽しい交流です。基本は健康第一、健康寿命を伸ばすこと。ウォーキングでは、時には県外まで足を伸ばし、観光地や古跡を歩いて景観を堪能するそうです。静岡の「きつたとうげ薩埵峠」では、背に富士山、前に相模灘を臨み、栃木県では味わえない景観に一同感激し、周辺を歩いたそうです。

このような、第二の人生において心を開いた仲間との交流は、何物にも代え難い貴重な機会だと声を揃えておっしゃいます。

ちかちゃん(70歳):シルバー大学先輩のご主人に勧められて入学し、人間関係がより広がり、色々なことに意欲的に取り組むことができ、「マイホームきよはら」の訪問活動の他に、社交ダンスや卓球、ウォーキング、民謡、歴史講座等、1週間のスケジュールはぎっしり。大切にしていることは、「大変なことでもニコニコと楽しくやれば、乗り越えることができ、楽しいことになってくる」「ありがとうが心の底から言えるように」の心がけだそうです。学ばねばと肝に銘じました。

てるちゃん(67歳):人前に立つことが苦手で、消極的になりがちな自分を改めようと一念発起、シルバー大学入学。和やかに声をかけて背中を押してくれたり、細やかな気配りをみせてくれたりする仲間の姿から、人とかかわり、お付き合いの仕方も学ぶことができ、交際範囲が広がったそうで、「マイホームきよはら」で担当するマジックの他に、他のマジックグループのリーダーも務め、技を磨いています。卓球、ウォーキング、コーラスと、やはり忙しくも充実した日々を送られています。「精一杯今を生きる!」実践者の言葉だからこそ強く心に響きました。

お二人のお話から、自ら、第二の人生をどのように生き抜くかをしっかりと考え、実践し、日常化していくことの大切さを学ぶことができました。ますます、お元気にご活躍なさることをお祈りいたします。



【頭を使って、ワッハッハ】



### ③ 観光ボランティアでのおもてなし 橋本信之 さん

取材：猶原特派員

今回は、大谷資料館で観光ボランティアをされている橋本信之さんの登場です。平成30年4月から6月にかけて、JR 各社と栃木県、市町村等が一体となって観光



【橋本信之さん】

キャンペーン「デスティネーションキャンペーン」が行われました。また、平成30年5月に「大谷石文化」が文化庁の日本遺産に認定され、県内外から多くの注目を集めました。さらに、テレビの人気番組にも取り上げられ、ますます人気スポットとなり、大勢の観光客が大谷地区を訪れています。さらに、来年夏の東京オリンピック開催に伴う外国人観光客や3年後には、42年ぶりに開催される「とちぎ国体」等、他県からの観光客の増加が見込まれ、ますます新しい宇都宮の魅力を発信する場が多くなります。

橋本さんは当初、うつのみやシティガイド協会ですべて市内を中心に活動されておりましたが、観光客の流れが大谷地区に移るにつれ、宇都宮の魅力を発信できるのは「ここだ」ということで、大谷資料館に活動の中心を移されたそうです。ご存知の通り、資料館には大谷石のユニークな歴史展示や、手作業で掘った地下空間、そこに<sup>そび</sup>聳え立つ石柱群はとても幻想的な光景で、観光客を魅了しています。このような立派な施設があることをガイドとして誇りに思い、皆さんに接しているそうです。昨年は、団体客を中心に約1万人の方をご案内されています。すべては出会いから始まり、この出会いとふれあいを大切にされています。楽しかった思い出は、また宇都宮に行きたいという気持ちに繋がり、リピーターが増えたことだそうです。観光客との出会い、ふれあいに感謝しつつ、更なる宇都宮の良さを自慢できるガイドを目標に、頑張っているらしいです。



【ビバンダ鶴田お楽しみ会】

このように、観光シーズンはてんてこ舞いの橋本さんですが、ご自分の地域に貢献したいと考え、昨年の1月から「社会就労センタービバンダ鶴田」さんを訪問し、ハンディキャップのある人達の趣味活動の一環として月1回ダンスを取り入れて、仲間達と活動しています。シルバー大学の在学中から、アフリカダンスクラブで活躍されていたので、スムーズに取り組めたようです。夏祭りやクリスマスのお楽しみ会で発表し、大変喜ばれているそうです。



【太鼓（ジェンベ）と愉快的仲間たち】

また、趣味でアフリカの太鼓チーム（モリバ・ジェンベ）で仲間と月2回練習し、各地区のイベントやお祭りに参加されています。ご連絡いただければ、出演を検討させていただくとのことでした。

タフで、活動家の橋本さんとお話をしていると、宇都宮のために色々な活動を通して努力されており、熱気が伝わってきました。これからも健康に留意して、活躍していただきたいと思いました。

○ 発行／編集 みやシニア活動センター（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）  
住所：宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所2階 高齢福祉課D8窓口  
電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575  
ホームページ：<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>